



平成 20 年 11 月 12 日

各 位

会社名 川田工業株式会社  
代表者名 取締役社長 川田 忠裕  
(コード番号 5931 東証・大証 第一部)  
問合せ先 常務取締役 渡邊 敏  
経営企画・財務・IR担当  
(TEL. 03-3915-4325)

### 中期経営計画の見直しに関するお知らせ

当社は、平成19年11月20日に公表しました中期経営計画を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

#### 記

#### 1. 中期経営計画の見直し

(前回)

(単位：百万円)

項目	平成21年3月期 (見込) (平成20年5月21日発表)	平成22年3月期 (目標) (平成19年11月20日発表)	平成23年3月期 (目標) (平成19年11月20日発表)
売上高	93,000	90,000	91,000
営業利益	700	1,600	2,500
経常利益	0	1,000	2,000
当期純利益	0	500	1,000

(今回)

(単位：百万円)

項目	平成21年3月期 (見込) (平成20年11月7日発表)	平成22年3月期 (目標)	平成23年3月期 (目標)
売上高	90,000	84,000	84,000
営業利益	1,300	1,900	2,600
経常利益	800	1,200	2,000
当期純利益	0	600	1,000

## 2. 修正の理由

当社は、平成19年11月に中期経営計画をスタートして以来、目標の達成に向けて各種施策を着実に実行しております。

建築事業におきましては、昨今のサブプライムローン問題に端を発した世界的な信用不安により、不動産市況は急激に悪化し、デベロッパーの資金繰り悪化等による倒産も急増しておりますが、当社は中期経営計画の重点施策としてマンション工事の選別受注を図り、利益率および運転資金効率のよいシステム建築工事の受注拡大を推し進めてきました。その結果、マンション工事の売上高は、急激な市場環境の悪化により当初予定を下回ると予想されるものの、マンション工事、システム建築工事共に収益性が向上し、建築事業の当初目標利益は維持できるものと考えております。

橋梁事業におきましては、「採算性の向上」を主軸とし、「受注体制の強化」および「競争力の強化」による経営基盤の確立をテーマに取り組んできた結果、採算性につきましては、利益重視の受注活動と損益状況を確実にモニタリングできる原価管理体制の構築、人員数の適正化による固定費の削減、生産ラインの見直しによる生産性の改善等の実施により向上しております。

鉄構事業におきましては、収益性が改善したことにより当期におきましては目標利益を大幅に上回ると予想されます。来期以降におきましても、鋼材・副資材等の価格高騰および調達難が懸念され、予断を許さない状況にありますが、当社の優位性を確保できる物件にターゲットをおき、採算性を重視した受注を図り、利益確保に努めてまいります。

以上のような状況から、前中期経営計画に基づく計画の骨子に変更はないものの、数値目標を修正することにいたしました。

以上